



今後の学習指針と流れ

いよいよセンターまで100日を切りました。現役生は最後の最後まで伸びますから、学年で丸となって、入試を迎えていきましょう。今後の学習の流れを以下に示します。しっかりと理解して、弱気にならず、励ましあいながらすすみましょう。

10月～11月の学習の指針

全科目、全分野に渡りながら、第一志望や限りなく第一志望に近い大学の過去問題の傾向を確認しながら、基礎、基本の確認と限られた時間で解ききることも含めた、大学の入試問題対策を平行して行います。注意点としては、基礎や基本をしっかりと確認しながら、その一方で「基礎だけ」にしない、過去問題対策が不足しないように、バランスよく行うことが大切です。あるいは、センター試験対策ばかりをしてしまったり、記号に○をつけるだけの学習になると、あとあとに響きます。ラストスパート前の一番苦しいところかもしれませんが、基礎と応用をバランスよくやっていく他はありません。

なお、この時期、特に文系は、受験大学のパターンをあまり考えず、滑り止めに近い大学については、様々な大学の問題に当たった方がよいと思います。現時点で、受験パターンを考えない方がよい理由としては、

- ① 現段階では夏休み直後の模試の結果しかなく、したがって準備が遅れた生徒の実力を把握することが難しいこと。
- ② 現段階では、入試情報が出そろわず、狙い目の日程や狙い目の大学を組み込むことができないこと。
- ③ したがって、理想的な日程を組むと皆と同じ受験パターンになり、結果、激戦の入試に突入してしまうこと。
- ④ 滑り止めや確実にとりたい大学については、むしろ問題の相性が合う大学を探す必要があり、したがって、問題をやる→大学を決める、の順番の方がのぞましいこと。

が挙げられます。受験校選定については、12月以降となりますので、そこで詳しいことを参照してください。

AO公募などの受験者

準備をすることは大切ですが、必ず一般入試の準備をしてください。極端な言い方をすれば、宝くじだと思ってください。決して合格しやすいわけでも、不合格なら一般もだめなわけでもありません。公募の不合格者から、一般の合格者が出るのですから、一番難しい入試なのです。変な期待をして、一般入試の準備をおろそかにしては目もあてられません。一般入試の科目に小論文や面接という科目が加わったと考え、3科目が5科目になったという配分で、一般入試の勉強を継続することが重要で、決して準備にのめりこむことのないようにしましょう。

10月23日、30日 全員受験 河合マーク、記述模試

11月上旬、各種大学別模試など

判定は未来の予測ではありません

模試の判定を「3年の〇月でこの偏差値の人は〇%受かる」＝「今後の伸び率」と考えている人がいますが、これは違います。模試の判定は予測でさえないので。

模試の判定は、模試ごとに判定に使う偏差が変わる訳ではありませんから、最終的に偏差値〇の人が50%受かるラインをCとしたに過ぎません。したがって、偏差値55がCラインであれば、浪人生であろうが、現役生であろうが、全てCなのです。

つまり、模試の判定は、「今、模試受験があったら、〇%受かる」ということに過ぎないので。たとえば、Eが20%以下ラインだとして、同じ入試が「今」あったとしたら、この中に奇跡的に(?)Cをとる人が出ますし、Aの中でもDに落ちる人が少数ながら出ますから、その確率を表示したものなのです。

模試は未来予測ではありません。現役生はまだまだ伸びます。経験上、DやEの上の方であれば、かなりの確率で合格に届きます。信じてがんばりましょう。

10月下旬～11月初旬 芝浦推薦出願

この段階で芝浦の1次推薦の出願が始まります。統一試験を受験していれば、出願できますが、説明会、保護者会に参加していない場合、同様の説明を学校で受けていただきます。

11月下旬～12月上旬 秋の模試の結果返却

この時期に、秋に受けた模試の結果が返却されます。勘違いをしてはいけないのは、これは12月現在の実力でなく、一ヶ月から一ヶ月半前の、自分の実力であるということです。勉強の成果が出るまでに時間がかかることを考えてみると、夏休みに順調にいったかどうかであり、秋冬の成果が出ているとはいえないかもしれません。とはいえ、この模試の成績を見ながら、「絶対現役」「浪人辞さず」「通学距離の妥協」などさまざまな要因を考えて受験校を決めざるを得ません。

逆に言えば、ここしか、受験校、受験パターンを決める時期はない、ということです。この時には、さまざまな要素を考えた上で、弱気にならず、しかし確実な受験パターンを組む必要があります。

12月初旬～中旬 各予備校入試動向説明会

秋の模試の動向を受け、各予備校では今年の入試動向の報告会が行われます。そうした傾向をみなさんにフィードバックできるのも、模試の返却と同様の時期となります。ここでの報告では、人気系統や注意を要する系統、今年生じたバッティング、校舎移転や入試の変更の確認、それに伴う動向変化などです。したがって、この報告を生かすことで、特に滑り止め校を把握するのに役立ちます。特に、志望校の判定がふるわない生徒ほど、この報告会を生かして受験校を決める必要があります。

なお、この動向説明会は、予備校が高校教員向けに実施するものです。本校では、その報告を教員がまとめた上で、みなさんに校内で説明会を開く、あるいは個別面談でフィードバックする予定です。

1 2月初旬 芝浦推薦試験

基準を上回るようにがんばってください。いくつかの基準は下回っても合格することはありますが、基準がなくなるわけではありませんので、少しでも基準に近づく点数がとれるよう努力をお願いします。

1 2月中旬から

国公立受験者は特にセンター対策に移行しましょう。

駿台のセンタープレを入試と同じ時間割で学校実施するのを皮切りに、冬休みに国語のセンター講座、冬休み明けは全科目のセンター講座、直前に学校で、入試と同じ時間割で最後のファイナルトレーニングと進めます。私大、二次対策を11月いっぱい進めたら、12月はいったんセンターに戻るイメージです。

1月 センター試験

出願では決して弱気にならないことがポイントです。入試がはじまりませんから、合格がなく、したがってどうしても「合格」がほしくなりますが、これまでの模試で私立の判定が出ている場合、漠然とした不安で、志望を下げると、結局、私立でそれ以上の大学の合格がとれ、「国立は受けない」というつまらないことになります。毎年、受けないなら第一志望に出願しておけばよかったのに、と思う生徒がどれだけいることか。

また、後期は、同様の理由で出願しても受験しない生徒が山ほど出てきます。強気強気を出願して、最後までがんばると、一般入試や前期に比べれば、かなり高い確率で合格をとれますので、強気がキーワードです。

2月 芝浦工大2次推薦

芝浦工大2次推薦は工学部定員の5%と定められていますので、工学部全体で多くて3名、たいていは2名以下です。(システム理工はありません。)しかも、人気学科については募集をしませんので、ここを期待することはやめてください。したがって、とりあえず、一般受験をしてダメなら芝浦2次、と考えるのは非常に危険です。

受験校選定の前に

現役か、浪人か？

現役で進学するか、浪人してでも第一志望を貫くのか、というのは本当に難しい決断です。しかも、これは単純な2択でなく、いくつかの選択肢に分かれると考えられると思います。

- ① **第一志望、もしくはある一定の大学に入学することを前提として受験をする。**
→この場合、自分の志望する大学に合格をとるための、受験パターンと、浪人をした時に勇気を持つことができる受験パターンを考える。
- ② **ある一定の大学に入学することを前提に、できるだけ確実な受験パターンを組む。**
→第一志望のレベルの大学ばかりでなく、判定で可能性がある大学を厚く受験しながら、滑り止めの大学を作っていく。
- ③ **現役で進学することを前提に安全なパターンを組むが、不測の事態が起きた場合は、しかたがないと考えられる。**
→A判定やB判定がついている大学を混ぜながら、C判定の大学を複数受けるように受験パターンを組む。A判定がついている大学に落ちたら仕方がないと思えるかどうかポイント。C判定を厚くするタイプ。

④ 絶対に現役で進学するので、不測の事態さえも起きないように確実な入学パターンを組む。

→A判定を2つ、B判定を2つ、というように、志望よりは、判定を中心に、ピラミッド型の受験パターンを組む。

おおよっぱに分けても、以上のような4パターンとなりますが、結局は、「志望大学・ある一定のレベルの大学への熱意」と「判定」のバランスで考えざるを得ません。これがアンバランスであれば、どうしても現役か、浪人か、ということを考えざるを得ないのです。

浪人の問題点は、大きく分けると3つです。ひとつは、金銭的な問題。おそらく予備校で100万円、入試自体で今年と同じ、もしくはそれ以上の金額が生じます。2つ目は、第一志望に入れるかどうか保証がないということ。浪人して第一志望に入る保証があればいいのですが、必ずしもそうでない以上、誰でも不安になります。そして、同じようなことですが、3点目として精神的な問題。現実的には起こりえないのですが、受かったところさえ落ちるかもしれないと考えたりさえするのが、浪人生の心理です。

では、現役で進学することの問題点は、何かといえば、不本意であるということです。さまざまな形の不安、不本意があると思いますが、多少の悔いは多かれ少なかれあるにせよ、入学した後に自らの大学を誇れないレベルであるとするれば、これほど不幸なことはありません。

予備校では、5月～6月の入学生が増えているそうです。これを「不本意入学」と呼んでいます。入学金、授業料を払って進学はしてみたものの、やはり合わない、納得がいかないなどの理由で、浪人を選ぶというような生徒が増えているのです。浪人よりもお金がかかってしまうというような結果になっても、それでも浪人するということですが、これはやはり、妥協が生んだ結果のように感じます。

どこに行っても同じ、というのは嘘です。進学校にいけば大学受験対応の授業がありますが、そうでない学校では授業が受験に対応しないように、大学でもそこにいる生徒の質で、カリキュラムの中身は変わりますし、対応も変わります。何より、友人に支えられながら、友人と情報交換をしながら、さまざまな社会に出る準備をするわけで、その意味では、どういう質の友達がいるかということは重要なファクターです。常識、普通、さえも変わってしまうのですから。

そう考えてみれば、浪人のデメリットである「保証がない」ということも、成長のための糧と捉えることもできるでしょう。

何も浪人を薦めているわけではありません。安易に「不安から逃げる」というだけで、不本意入学にならないようしっかりと方針を定めることが重要なのです。

何校受けるか？

ここまでの話でわかったかと思いますが、「現役か浪人か」のどのパターンであるかと、合格可能性がどのくらいあるか、で受験校数はかなり変わります。たとえば、早稲田大学にA判定やB判定がついているなら、このあたりを2～4受けて、MARCHレベルを2つも受ければかなり確実な受験パターンでしょう。

しかし、早稲田にE判定がついているけれど受けたいとなると話は変わります。たとえば、早稲田を政経、商、社会学、教育と受ければもう4つです。MARCHレベルもおそらくCやD、場合によってはEでしょうから、かなり数を受けたくはなりません。滑り止めは全く作れていませんし、妥当な学校を2～3、安全な学校を2～3と受けていけば、あっという間に10校を越えます。これにセンター利用を加えたら…。

恐ろしい数の受験校になることがわかるでしょう。

基本的には、逆三角形型が望ましいといえます。第一志望校や進学妥当校を厚くし、滑り止めを薄くするというパターンです。これを基本としますが、偏差値や判定が芳しくないのに「どうしても早稲田」となると、その上に受験校を積み上げる必要があります。逆に、「絶対に現役」となると、第一志望をあきらめるのでなければ、どうしても下に増やす必要が出ますから、上から下まで2～3校ずつとなり、受験校がかさむこととなります。

受験パターンと合格のとりやすさ

基本的に、センター利用、全学部入試、個別入試、という3つの入試パターンがあります。(全ての大学が3パターンあるわけではありません。)一概にまとめられるものではありませんが、おおよその傾向を書いておきます。

① センター利用入試

センター試験の結果を利用して、判定を行う入試。受験料も比較的安く、入試回数を減らすメリットがある。ただし、合格は比較的とりにくい。受験生が減っても、合格数を絞り、レベルを保とうとする傾向がある。今年廃止された慶応のセンター利用合格者で、実際に入学した者は0名であったとのこと。すなわち、センター利用で合格をとれる生徒であれば、一般入試で合格をとれる可能性が高い。

なお、センター試験前に出願する事前出願の大学と、センターの結果のあとに締め切りのある事後出願があるが、一般的に事前出願の方が入りやすい傾向にある。

② 全学部入試

ある大学で共通の入試を課し、ひとつの試験で複数学部の判定を行う入試。一般的に個別入試の前にあることが多い。大学によって、複数学部への出願がOKな大学と、認めていない大学にわかれる。個別入試と比べてどちらが合格をとりにくいかは、大学によって、また、年度によって異なるので非常に難しいが、どちらかというとな個別入試の方が入りやすい傾向にあると考えられる。

③ 個別入試

いわゆる一般入試。結局、この入試が一番入りやすいと考えられるし、ここを軸に考えるのが一番。

必ず合格校をとろう。

受験に関しては、仮に「浪人辞さず」と考えていたとしても、「〇〇大学以下は進学しない(させない)」と考えていたとしても、必ず合格校をとってください。理由は大きく分けると2つです。

① 第一志望合格のための準備を進める

受験というのはスポーツの試合や大会のようなものです。オリンピックがいくら4年に1度だとしても、次のオリンピックはやってきますし、それに類する世界選手権や日本選手権、大学選手権などなどさまざまな同様の試合や大会を経験しながら本番に向かうわけです。しかし、大学受験は、本当の1発勝負で、類するものといえば模試程度です。これで、いきなり本番では緊張して力が発揮できなくても仕方ありません。

かつて、センター利用で第二志望の合格をとれた生徒がいました。残すところは第一志望の受験だけです。彼は、全ての受験をキャンセルし、第一志望に向かいます。結果は不合格でした。考えてみれば、センター試験を受けて以来、1ヶ月全く受験を知らず、個別入試は初めてだったわけです。彼は、因果関係はともかく「がんばったのに1校受けて終わりというのが不完全燃焼だった」という意味の話をしてくれました。

受験は、進学のためだけでなく、いかに第一志望、進学を期待している大学の受験に向かうかという視点でも考える必要があります。したがって、センター利用で合格しても、少なくとも受験校を0にするようなことは決してせず、受験を経験していくことが大事だと思います。

② 浪人したときの「目安」を作る

私自身が浪人した時の一番の問題は「不安」でした。MARCH以下は進学しない=受けない、という図式で現役を終えるわけですが、浪人をして成績があがる実感があるにせよ、ちょうどこの秋頃から漠然とした不安に襲われます。当然と言えば当然ですが、二浪が絶対に嫌な自分は、MARCHどころか、その下から受けはじめます。それでも、本当に大

丈夫か不安になるのが浪人生です。実際、センター試験では予定通りに点数がとれていたにも関わらず、絶対に大丈夫な大学(すなわちA判定の大学)に出願をしてしまいます。(その時点では、私立の合格はないわけですから、不安なのです。)結果としてみれば、私立は順調に合格をとり、国立も合格をとるのですが、A判定がついた国立の大学は、レベルを下げています(自分としては現役の時の志望校という言い訳があります)ので、国立には進学せず、私立に進学します。本来は、C判定以下でも私立以上の国立に出願すべきだったということは全てが終わって気づくことです。

このようなことが起こった理由は、簡単にいうと、現役で合格をとらなかったために漠然と起こった不安のせいだと思います。もし、とっていけば、成績があがっているから、このあたりをこのぐらい受ければ大丈夫だろう、という目算が立ったはずです。

もし、逆に受けて落ちていたとしましょう。その程度の実力で「受ければ受かったけど、受けなかった」などと思って浪人のスタートを切っていたら、危なすぎると思います。

以上のようなことから、必ず合格校を作り、合格をとっても、第一志望の合格をつかむために、きちんと受けるようにしていきましょう。

日程移動によるバッティングや校舎移転の情報

日程が移動することにより、入試日程が重なることをバッティングと呼びます。こうした日程移動も入試難易度に大きく関わります。

かつて、早稲田の法学部が現在の15日に移動した時の話です。

前年度は学習院の法、上智の地球環境法だけだった15日がこの3校のバッティングになったわけです。

影響を受けるのは、学習院と上智で、早稲田の法学部を受けるような上位層が、前年に比べて少なくなるわけですから、合格ラインに影響が出る、すなわち受かりやすくなることは間違いがありません。

最近、多いのは、全学部日程の新設にともない生じるバッティングです。

これと同様に、特に文系では、早稲田、明治、立教あたりで日程を考えると、2日連続、3日連続を避けようとする、皆が同じように〇〇大学を受けなくなることもよくあります。偏差値によってはあえてそういう大学を受けに行くことも大事だと思います。

校舎移転により人気動くこともありますが、私の感覚では、校舎移転の前年から1年目まではむしろ入りやすい傾向が続きます。たいていの場合、移転費用のために定員以上の発表をするケースが多く、受験生も滑り止め大学の情報には敏感ではなく移転そのものをそんなに知らないからです。逆に校舎が完成した2年目以降は、情報も浸透し、きれいな校舎を見て、受けたくなる一方、大学側は経営的に落ち着くので定員発表に戻ってまいりますから、激戦になるようです。

同じような情報で言うと、入学者数はとても重要で、ある学年に定員をオーバーする学年が生まれると、校舎のキャパシティなどから、絞り込んだ発表をせざるを得ないケースもあるようです。たいていの場合、こうした状況は隔年で生まれやすいので、倍率や入学数で難易度をはかる場合、最低過去2年は見ておかないと危険です。

こうした情報は、前述したように12月上旬から中旬に生徒にフィードバックします。

所在地や学部による難易度

基本的に所在地は、大きく難易度に影響します。たとえば法政大学は経営学部が通える範囲、経済学部は多摩になりますが、同様の学部名でもあきらかに多摩の方が合格をとりやすいようです。理科大であれば、野田キャンパスは全体的には不人気ですから、やや不安のある生徒は、理工学部や基礎工学部(1年次長万部)を狙うと合格がとりやすいと考えられます。

また、学部でも難易度は大きく違います。文系であれば、法学部、心理学、私立教育が別格で高く、文学部や教員養成でない教育は低めです。理系であれば、建築や医薬、化学は常に人

気系統で、電気や情報が低めになっています。同じような系統でも土木（実際は都市計画ですから、むしろやりたいことが合う生徒も多いはずです）となると、その名前からか、建築より入りやすくなります。

結果、大学名にこだわるなら、明治法より早稲田教育が入りやすい、芝浦建築より、理科大土木の方が入りやすい、などのことは普通に起こりますので、しっかりと予想偏差、倍率などを確かめることが重要です。その際、前述のように、隔年現象に惑わされないよう、最低2年分は確認してください。

今後の予定

10月23日 河合模試記述

10月30日 河合模試マーク

11月2日（水） 芸術鑑賞会

11月4日（金） 創立記念日（休校）

11月7日（月）～11日（金）19日（土）26日（土） 面談週間

※保護者面談も行いますが、この時期は受験校選定でなく、おおよそのガイドラインの確認になります。詳細な受験校選定を行いたい方は、12月以降に実施します。

11月11日（金）～17日（木） 芝浦学科説明会

12月6日（火）～9日（金） 卒業試験・芝浦推薦試験

今後の模試予定

今後の模試予定を簡単に記します。適宜変更もありますし、追加などもありますので、参考にしてください。

10月23日 河合全統記述模試 会場実施 全員受験（経費徴収済み）

10月30日 河合マーク模試 会場実施 全員受験（経費徴収済み）

※上記、河合模試は、会場実施ですが、全員受験となります。マーク模試はICプレーヤーを使う形で実施します。

11月3日 代ゼミ全国総合模試 申込み受付中！まもなく締め切ります。

10月下旬～11月上旬 河合東大即応オープン 希望者 会場受験

10月下旬～11月上旬 駿台国立大各種プレ模試 希望者 校内実施

10月下旬～11月上旬 代ゼミ国立大各種プレ模試 希望者 会場実施

申込み受付中！まもなく締め切ります。

11月12日13日 駿台東大実戦 希望者 会場実施

11月13日 代ゼミ早大プレ 希望者 会場実施

11月17日 河合センター試験プレ 希望者 会場実施

11月23日 代ゼミ センタープレ 希望者 会場実施

11月26日27日 代ゼミ東大プレ 希望者 会場実施（校内実施検討中）

12月4日 代ゼミ全国総合模試

12月11日 代ゼミ国立記述模試 希望者 会場実施

12月15日16日 駿台センタープレ 希望者 校内実施

12月31日 代ゼミ慶大プレ 希望者 会場実施

※1月11日12日 センター試験ファイナルトレーニング 希望者校内実施

模試について

・模試を受けること自体が大事な練習です。（何も見ず、時間内で解ききる）しっかり受けましょう。

・とはいえ、たくさんの模試がありますので、自分の受験大学やレベルをもとにしっかりと作戦を立てましょう。

たとえば…

文系私大型であれば…代ゼミ早大プレ、慶大プレあたりを軸に、センター利用入試を考えているかどうかで、マーク模試をどのくらい入れるか検討する。余裕があれば、総合模試も。

東大志望者であれば…駿台、河合の東大実践、東大オープンを軸に、マーク模試を入れつつ、総合模試やプレ模試を適宜入れる

国立志望者であれば…マーク模試と記述模試や総合模試を軸に考える。私大プレを入れるかは自分の実力と模試予定をにらみながら。

・模試を受けたら、①何も見ずに解き直す②参考書を見て解き直す③解説を見て解き直す、の3段階を必ず踏みましょう。これをしっかりやれば、実力は確実につくはずです。

30期学年目標

未知の世界を切り開き、社会に貢献する、自立した「人財」へ

目標とする人間像

「気づき」のある人間 「聞く姿勢」を持つ人間 「学び続ける」人間

身につけるべき力

目標から「逆算」する力
やるべきことを「具現化」する力
他者を「理解」し、「理解される」力

夢実現のための十則

- 夢を持て。ない夢はかなわぬ。目標なく一生懸命やることに酔うな。
- やることを与えられるな。自分のために創り出し、形にして期限を決めよ。
- 他人と関われ。他人を理解しようとしろ。他人に理解される努力をしろ。
- 挨拶をせよ。人に気づき、人に気付いてもらえる。
- 毎日他人に奉仕しろ。心がきれいなら他人も応援してくれる。
- 話を聞く姿勢を作れ。聞く人には教えたくなる。助けたくなる。
- 書け。何度でも書き直せ。書かないことは考えていないこと。
- 自分と戦え。自分は見ている。人と戦うな。気にするな。自分が変われ。
- 大事なことは最初にやれ。優先順位を考えろ。タイミングを逃すな。
- 成功を繰返し、失敗を繰返さぬよう分析しろ。原因を五回さかのぼれ。